

ムサビの教員が選ぶ
美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

教養文化研究室
更科功教授

登録待ち

『その扉をたたく音』

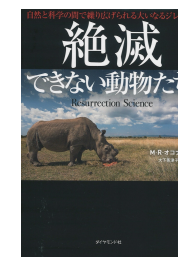
(集英社文庫 ; せ 6-4)

瀬尾まいこ 著, 集英社, 2023



学生時代からのミュージシャンの夢を捨てきれず、卒業後も親からの仕送りで暮らす29歳で無職の青年の物語である。でも、青年の想いはそれほど熱くない。ミュージシャンになろうと必死に頑張っているわけではなく、部屋でギターを弾きながら怠惰に暮らしているだけである。そんな青年がひょんなことで老人ホームに通うようになり、入居者たちと仲良くなっていく。だからといって、とくに大事件が起きるわけでもなく、青年が人生に目覚めるわけでもない。しかし、どんなに輝いている夢よりも、どんなに立派な生き方よりも、もっと大切なものがあることに青年は気づいていく。そんな静かな物語である。

『絶滅できない動物たち：
自然と科学の間で繰り広げられる
大いなるジレンマ』



M・R・オコナー 著,
大下英津子 訳, ダイヤモンド社, 2018

登録待ち

19世紀のアメリカにはリョコウバトが50億羽もいたが、現在では絶滅してしまった。それを遺伝子工学で復活させる計画がある。目指すは19世紀のアメリカだが、リョコウバトが50億羽もいたアメリカは、本当に健全な生態系だったのだろうか。古代遺跡のデータから推測すると、かつてリョコウバトはそれほど多くなかったらしい。アメリカ先住民に食べられたりして、バランスが取れていたのである。ところが約500年前にヨーロッパ人がアメリカにやってくると、感染症や虐殺や奴隷化によってアメリカ先住民の社会が崩壊し、人口が激減した。その結果バランスが崩れて、リョコウバトが大発生した。つまり、リョコウバトが50億羽もいた19世紀のアメリカは異常な生態系だったのだ。本当に健全な生態系に戻すには、ヨーロッパ人がアメリカから出ていって、アメリカ先住民を復活させなければならない。でも、それは実現不可能な夢でしかないだろう。